

味の素株式会社 様

ASEAN4カ国の基幹システムをシンガポールのクラウドへ移行、
国内災害による海外事業リスクを排除、現地で完結する運用を実現

「今回のプロジェクトで富士通を選んだ理由は、ひと言でいうなら、グローバルなシステム移行やクラウドサービスにおける信頼感です。プロフェッショナルとして安心して任せられると感じました」

吉田 孝氏

味の素株式会社 情報企画部 専任部長



課題

日本国内での自然災害の影響を受けないシステム環境の実現

現地ユーザーと国内運用窓口との連携時における翻訳などの支援負荷の軽減

効果

自然災害リスクの低いシンガポールにあるデータセンターのクラウド環境にシステムを移行し、グローバルな事業継続性を強化

サービスデスクをシンガポールに開設。また、ジョブ管理ツール「FUJITSU Software Systemwalker Operation Manager（以下 Systemwalker Operation Manager）」の英語版を導入し、主な運用管理を ASEAN 内で完結することで日本国内の負荷を軽減

ソリューション

FUJITSU Cloud IaaS Private Hosted LCP
FUJITSU Managed Infrastructure Service サービスデスクサービス
FUJITSU Software Systemwalker Operation Manager

選んだ理由

グローバルなクラウドサービスの提供において豊富な経験と技術を持ち、パートナーとして安心して任せられる

採用のポイント

自然災害リスクの低いシンガポールのクラウド環境への移行により、フレキシブルなリソース活用が可能

概要

食品やバイオファイン、医薬・健康などの分野で独自のビジネスを推し進め、グローバル展開を加速する味の素株式会社様。同社では、タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシアの ASEAN4 カ国の基幹システム（SAP）を日本国内からシンガポールデータセンターで提供される「FUJITSU Cloud IaaS Private Hosted LCP（以下 Private Hosted LCP）」に移行し、国内災害による海外事業リスクを回避。同じくシンガポールに英語対応のサービスデスクを開設し、

主な運用を ASEAN 内で完結する体制を構築した。また、グローバルサービスマネージャーによる運用の「見える化」や継続的な改善提案を進め、エンドユーザーへのサポート向上を図っている。

日本での自然災害リスクを回避

同社では、従来までこれら 4 カ国の基幹システムは、日本国内にシステム基盤を置き、インフラ運用管理も国内で行っていた。しかし、アジア

市場の重要性が高まるにつれ、グローバルな事業継続計画の観点から早急に解決しなければならない課題が浮上してきた。同社情報企画部専任部長、吉田孝氏は次のように語る。

「日本における自然災害リスクにいかに対応するか。それが第一の命題でした。日本で巨大な地震が発生し、データセンターが被災した場合、震災とは直接関係のない、遠く離れた ASEAN の国々のシステムがストップしビジネスが麻痺してしまいます。そのリスクを未然に回避する必要があったのです」。

関係者の方々



乾 英一氏 情報企画部 専任課長



金子 智彦氏 情報企画部

会社概要 味の素株式会社 様

所在地 | 〒104-8315 東京都中央区京橋1-15-1

代表者 | 代表取締役社長 伊藤 雅俊

設立 | 1925年(創業 1909年 5月)

従業員数 | 単体 3,343名 連結 27,518名
(2013年 3月 31日現在)

事業内容 | 調味料をはじめ各種食品の製造および販売、アミノ酸技術の開発、化粧品
の製造および販売、医薬品・医療用食品
の製造および販売

URL | <http://www.ajinomoto.com>

グローバルなクラウドサービスに おける富士通の信頼感

このような課題の解決に向けて、富士通が提案したのは、自然災害リスクの低いシンガポールのデータセンターから提供される「Private Hosted LCP」にシステムを移行するというソリューションだった。

同社では、ベンダー数社から提案を受けて検討を重ねた結果、プロジェクトのパートナーとして富士通を選択した。その選定のポイントについて、吉田氏はこのように語る。

「最終的に決め手となったのは、パートナーとしての信頼感でした。というのも、私たちは運用や管理には精通していても、システムの構築や移行に関しては専門家ではありません。グローバル環境でのクラウド利用についても初めてのプロジェクトであり、安心して任せられるプロフェッショナルのサポートを求めているのです」。

また、グローバルなクラウドの構築・運用における豊富な経験とノウハウも選定理由のひとつだった。同社情報企画部専任課長、乾英一氏は次のように話す。

「ASEAN4 カ国のシステムは非常に複雑な環境でした。それらを海外の、しかもクラウド環境に果たして完璧に移行できるのか？ 当初は懸念していましたが、富士通の理路整然とした対応によって不安も消え、安心して任せられると確信しました」。

国境を超えたシステム移行を1.5日で完了

こうしてシンガポールの「Private Hosted LCP」への基幹システム移行が完了したのは2014年2月。移行にともなうシステム停止も1.5日ときわめて短い期間で、クラウド上に基幹システムが稼働した。このプロジェクトでは、運用体制も一新。シンガポールにサービスデスクを開設し、日本を介することなく、英語対応

によるダイレクトなエンドユーザーのサポートを実現した。

また、そのためのジョブ管理ツールとして富士通の「Systemwalker Operation Manager」の英語版を新たに導入した。同社情報企画部の金子智彦氏はこのように話す。

「4カ国のエンドユーザーにも『Systemwalker Operation Manager』のクライアントツールを導入しましたが、GUI や操作もわかりやすく、簡単な説明とマニュアルだけで容易に立ち上げることができました。監視画面なども見やすいと感じています」。

さらに富士通では、ASEANのIT運用管理者と日本で統括する同社情報企画部との円滑な連携のために、グローバルサービスマネージャーを配置。海外インフラサービスの統制や運用の「見える化」、継続的な改善提案を目指している。

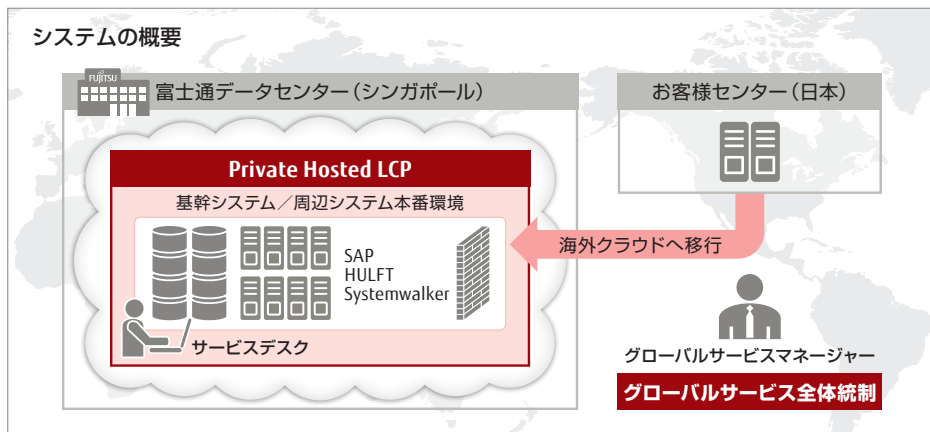
グローバルな情報戦略のパートナーとして

同社は現在、「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」を目指した中期経営計画を推し進めており、今後はグローバルビジネスの基盤となる情報システムにおいても海外での展開を拡大していく。その取り組みを統括する吉田氏は次のように語る。

「富士通には、グローバルな情報戦略を推し進めていくためのパートナーとして、今後はさらに一歩踏み込んだ、プロアクティブなサポートを期待しています」。

富士通は、クラウドをはじめとする先進かつ多様なソリューションと、ワールドワイドなサポート体制をフルに活かし、同社のグローバルビジネスを強力に支援していく。

システムの概要



(注) 本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものです。(取材日：2014年3月14日)
また、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

SA1071 2014年4月 AP

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン (総合窓口) **0120-933-200**

受付時間 9:00～17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター